

## 高齢者に向けたキャッシュレスの促進

報告者 伊藤太陽  
佐々木大成  
佐藤直樹

### 目次

1. 問題意識、目的
2. 日本の現状分析
3. 日本と海外の比較分析
4. 高齢者への普及
5. まとめ
6. 参考文献

### 問題意識・目的

日本国内のキャッシュレス普及率は 2020 年時点で 20%程度である。海外と比較すると 2016 年時点でさえ韓国 96.4%、イギリス 68.6%、中国 65.8%であるのに対し日本はわずか 19.9%であり海外より大きく遅れており、この状況は 2020 年になってもほとんど変化は無い。日本国内のキャッシュレスの普及率が低い大きな原因の一つは高齢者の利用率が低いためだと考えられる。

そこで、我々はいかに高齢者の利用率を上げるべきなのか、その方法論を考えたい。

### 内容

- ・日本のキャッシュレス普及状況とキャッシュレス決済の種類、決済比率など具体的データに基づいて日本国内のキャッシュレスの決済状況を整理した。
- ・現状整理を行うなかで、日本のキャッシュレス普及率を上げるためには高齢者の利用率の向上がキャッシュレス決済を普及し拡大する上で非常に重要であることが判明した。
- ・そこで、海外ではスウェーデンと中国の事例、国内では泉佐野市と松山市の具体的な取り組み状況と事例を分析しながら、日本全体のキャッシュレスの普及率の向上、とりわけ高齢者の利用率を上げる方法論を検討した。

### 結論

今回の調査により高齢者はポイント特典に高い関心があることや決済手段が多すぎてかつ複雑であること、そして個人情報漏洩の可能性などに高齢者が不安を抱えていることを確認した。このため、高齢者の方たちにキャッシュレス決済を利用してもらうためには、そうした不安や懸念を如何にして取り除くかがキャッシュレスの普及率の向上にとって重要であるという結論に至ったのである。